

社会福祉法人たんぽぽ福祉会

所在地 恵那市長島町
形態 障がい者施設
栽培品目 菌床シイタケなど
利用者数 230名



『くりくりの里中津川』の食品加工スタッフ

◎働くことは生きること

昭和54年4月、前身となる恵那たんぽぽ共同作業所を開設しました。以後、「働くことは生きること」を経営理念とし、主に重度の障がい者を200名超受け入れ、全員に農業やパン工房、レストランの運営をはじめ、80種類以上の労働を提供しています。他から軽作業を下請けする外部依存だけでなく、自ら仕事を生み出すことができる農業に価値を見出し、主力の菌床シイタケは年間10万菌床を栽培し、名古屋市場へ出荷しています。福祉事業所や農家向けに菌床ブロックを生産販売も行っています。直径約12～13cmに達する肉厚のシイタケ「天恵菇(てんけいこ)」の栽培は、全国でも珍しい取り組みです。平成26年には、売店・飲食店・食品加工所を併設した多機能型事業所「くりくりの里中津川」を開業し、1次・2次・3次産業の各ステージで働く場を提供するなど、利用者が様々な形で働くことができる仕組みを作り上げています。

お客さまにとって、福祉が運営しているかどうかは関係ありま



天恵菇の収穫
気温が低いうちに素早く収穫する



A品からC品までの仕分け作業もマスター

せん。あくまでお客さまの好むものを提供するため、2回目以降も訪れたいと思ってもらうために日々、努力を重ねています。この利用者は皆、顔をあげていきいきとしています。利用者の皆さんは、障害年金と自ら働いて得た給料でより多くの社会の仕組みを学びます。障がい者の人間性を育て、高めていくためには、働く経験が必要であり、働くことで生活が豊かになります。転ばないように先に手を出し、口を出してしまうと自分で判断する機会を奪ってしまいます。失敗できる環境を作ってあげることも大切だと理事長は話します。